

再建中の「今」ならではの 首里城を間近でご覧ください。

2019年10月31日の火災で、正殿を含む9つの施設が焼損しました。

現在は、国内外の多くの皆さまからのご支援をいただき、

「見せる復興」をテーマに一歩ずつ着実に復興への歩みを進めています。

復元工事は正殿から着手しており、正殿の建っていた御庭には、

木材を加工する「木材倉庫」、原寸大の図面をかく「原寸場」、

建築中の正殿を雨風や埃から守る「素屋根」が建てられ、

併設された見学エリアからガラス越しに復元工事の様子をご覧いただけます。

※原則、土日は復元工事の作業はお休みです。

案内所

救護室

駐輪場

飲食店

AED

(自動体外式除細動器)

エスカレーター

売店

トイレ

貸出センター

(車イス・杖・ベビーカー)

エレベーター

コインロッカー

授乳室

駐車場

喫煙所

おむつ交換台

駐車場

喫煙所

無料区域

有料区域



④広福門 (こうふくもん)



扁額の「広福」とは「福を行き渡らす」という意味。東側は戸籍を管理する「大与座」、西側は寺や神社を管理する「寺社座」がありました。

⑤奉神門 (ほうしんもん)



3つの入口のうち、中央の門は国王など限られた身分の高い人だけが通りました。開門を告げる朝の儀式「御開門」を見ることができます。

⑥原寸場見学エリア



ここでは首里城正殿の復元工事をしています。3階建てで、各階に設けた見学エリアから間近で作業の様子をご覧いただけます。

⑦素屋根(すやね)見学エリア



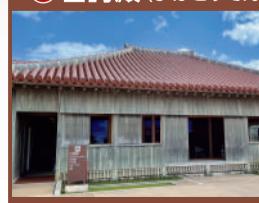
獅子瓦など火災後の残存物の展示や、首里城復興へのあゆみを映像で紹介しています。展示内容は工事の進捗にあわせて変わります。

⑧首里城復興展示室



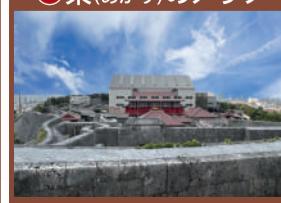
国王が亡くなると、次期国王の即位の礼が行われた場所。現在は大型モニターで琉球王国の歴史と首里城正殿遺構の魅力などを紹介しています。

⑨世誇殿 (よほこいでん)



城郭の東側に築かれた物見台で、首里城公園一帯や那覇の街並みを一望できます。東は日が昇る場所のため方言で「アガリ」と言います。

⑩東(あがり)のアザナ



城郭の東側に築かれた物見台で、首里城公園一帯や那覇の街並みを一望できます。東は日が昇る場所のため方言で「アガリ」と言います。

①守礼門 (しゅれいもん)



扁額の「守禮」は「礼節を重んずる國である」という意味。沖縄戦で一部破壊され、1957年に復元。2000年12月に世界遺産に登録されました。

②園比屋武御嶽石門 (そのひやうたきいしもん)



世界遺産

世界遺産